

23PO-am419S

ベンゾジアゼピン受容体作動薬の使用における初回者と継続者の比較

○馬場 香菜子¹, 小原 依里², 飯原 なおみ¹ (¹徳島文理大香川薬, ²徳島文理大薬学研究科)

【目的】ベンゾジアゼピン受容体作動薬 (BZ 薬) はふらつき、便秘、認知機能低下などの副作用を生じるため、初回使用者や高齢者では低用量の使用が望ましい。しかし、BZ 薬の詳細な使用実態は不明である。本研究では BZ 薬の初回使用と継続使用に着目し、BZ 薬成分数や併用される中枢神経系用薬 (CNS 薬) 成分数を比較した。

【方法】JMDC のレセプトデータベース (健康保険組合のレセプト情報) 2013 年 4 月～2014 年 3 月を用いた。2013 年 4 月時点で 40 歳以上の外来患者を対象とし、調査期間に入院した者、麻薬使用者は除外した。上半期の BZ 薬使用の有無により初回使用者と継続使用者に分け、2013 年 10 月以降における BZ 薬初回使用日の BZ 薬成分数、CNS 薬成分数 (BZ 薬を含む) を年齢階級別 (5 歳刻み) に調査した。BZ 薬は抗不安薬・抗睡眠薬を対象とし、使用日は調剤日と投与日数から特定した。

【結果】BZ 薬の初回使用者 16,576 人、継続使用者 46,088 人を特定した。BZ 薬成分数 (25, 50, 75 パーセントイル, 最大値) は、初回使用者 (1, 1, 1, 5)、継続使用者 (1, 1, 2, 10) であった。CNS 薬成分数は、初回使用者 (1, 1, 1, 8)、継続使用者 (1, 2, 3, 17) であった。年齢階級別では、BZ 薬、CNS 薬ともに、初回使用者、継続使用者のいずれにおいても、年齢階級の上昇に伴い成分数は減少した。

【考察】BZ 薬初回使用者の BZ 薬成分数や CNS 薬成分数は、BZ 薬継続使用者に比べて少なく、また、年齢上昇に伴いこれらの成分数は減少していることがわかった。しかし、初回使用でありながら、同日に抗不安薬・抗睡眠薬の BZ 薬を 5 成分も使用している事例があり、注意したフォローアップが必要である。